

会 議 録

会 議 名	令和2年度東浦町パートナーシップ推進事業補助金審査会	
開 催 日 時	令和2年6月24日（水） 午前9時45分から午前10時25分まで	
開 催 場 所	文化センター 視聴覚室	
出 席 者	委員	吉村輝彦委員長、牧野清光副委員長、野村雅廣委員、高見靖雄委員、戸張里美委員
	事務局	長坂課長、筒香課長補佐兼協働推進係長、山田主事
	申込団体	ConnectIng To Youth
議 題	<p>1 令和2年度東浦町パートナーシップ推進事業（公開プレゼンテーション審査）</p> <p>（1）審査事業「空き家を核とした地域イノベーション事業」</p> <p>2 審査結果</p> <p>3 講評、総括</p>	
非公開の理由		
傍聴者の数	7名	
審 議 内 容 （ 概 要 ）	<p>議題</p> <p>1 令和2年度東浦町パートナーシップ推進事業（公開プレゼンテーション審査）</p> <p>令和2年度東浦町パートナーシップ推進事業申込団体からプレゼンテーションにて事業の説明を行った後、委員から質疑、これに対する応答が団体よりあった。</p> <p>なお、質疑応答は下記のとおりである。</p> <p>（1）審査事業「空き家を核とした地域イノベーション事業」 （委員）</p> <p>オープン後のイベント開催予定等に月曜日が入っていないが、月曜休みか。公共施設等は月曜日が休みのため、ボランティア活動団体等は月曜日に活動する場所がなくて困っている。月曜に開けていると、人を呼び込めるのではないかと思う。</p> <p>（委員）</p> <p>会則では団体は平成30年10月から設置されている。昨年度から空き家のリノベーション作業をしており、計画表では9月にスナック&Bar 風オープンとあるが、これまでにはリノベーション作業を完了するのか。</p>	

	<p>(ConnectIng To Youth)</p> <p>オープン後の使い方によって手を加える部分は出てくると思うが、リノベーションは完了する。</p> <p>(委員)</p> <p>収支予算書にて「施工費」として 60 万円が計上されているが、計画表によるとリノベーションはイベントとして行うとされている。施工費の 60 万円は何に係る金額か。</p> <p>(ConnectIng To Youth)</p> <p>屋根に雨漏りがあるため、屋根の補修等を行いたい。</p> <p>(委員)</p> <p>平成 31 年度の活動について、決算の歳入・歳出の総額はどの程度であったか。</p> <p>(ConnectIng To Youth)</p> <p>100 万円程度。</p> <p>(委員)</p> <p>支出区分の具体性が課題である。今までの活動を踏まえて、どの程度整備が終わっており、今後どこまで行うのかが明確になっていない。収支予算書における原材料費 27 万円が何の材料費なのか。プレゼンにおいてスナック&Bar 風のイメージ写真があったが、原材料費と施工費からあの形になるのか。机等はどのように調達するのか。イベントを行う場合にはどのような収入・支出が想定されるのか。ハード・ソフト共に事業の具体性が分からない。</p> <p>こうした取り組みは大事なことであり、初期投資の必要性も分かるが、その後どんな活動が展開されるのかが具体的でないと感じの輪が広がらない。クラウドファンディングには少なからずリターンが必要となるが、その点は計画の中でどのように考えているのか。</p> <p>(ConnectIng To Youth)</p> <p>現在改修している空き家は、国道沿いの緒川駅近くの場所である。道路に面して玄関の扉があるため、出入りが危ない。玄関扉の位置を側面に移動させたい。玄関の枠等に 27 万円を見込んでいる。</p> <p>玄関枠の 27 万円はフリースペースの方に使う。スナック&Bar 風のスペースに関しては、もともと飲食店を行っていた場所であるためそれほど内装に手を入れる必要がない。</p> <p>クラウドファンディングに関しては、イベントに参加できる券や農産物などをリターンとして考えている。</p> <p>(委員)</p>
--	---

地元の東浦高校の卒業生を中心に、若い方々がこのような企画をしてくれたことを嬉しく思う。町でも問題となってきた空き家を活用し、居場所・フリースペースを作り出し、地域の新しい可能性を創出するという目的にも共感する。ぜひ協力したい。

しかし、他の委員からの指摘にもあったとおり、収支予算書が大まかである。クラウドファンディングで70万円の収入が得られるのか。施工費のことも質問がなければ内容が分からなかった。役場と相談しながら、収支予算書を具体的にしてほしい。

心配な点として、この場所は知る限りずっと空き家になっているため耐震性に不安がある。また、新型コロナウイルスの関係で「新しい生活様式」で事業を行わなければならない。参加者は1日平均10人を目標とすると書いてあるが、国や町の動向を注視しながら人集めや感染予防を行ってほしい。消毒液等感染予防に必要な物品についても、購入するなどして対応してほしい。

(委員)

昨年度イオンモールで行われた「若者会議」の発表会で事業の構想を聞いたときに「こんなことが本当に実現できたらいいな」と思っていたが、今日は具体的な話が聞けた。

若者を中心とした取り組みであるが、地域の人や高齢者をどのように巻き込んでいけるかを考えてみてほしい。

会則では代表や会計などの役割分担を定めていないが、会計等もすべて代表者が行うのか。

(ConnectIng To Youth)

東浦町には、今回改修する空き家のすぐ近くにあるグリーン・ラソなど、地域の人や高齢者の集まる場所が充実していると感じる。だからこそ、若者が集まる場所がないと感じた。まずは若者が集まることによって、地域の方が興味を持ってくれると思う。最初に若者を集めて地域の方の興味を引くことができれば、地域の中で新しいことができると思う。

団体の会計等はすべて一人で行っている。補佐してくれるメンバーが欲しいところではあるが、学生のメンバーは授業や入れ替わりもあるため、定着が難しく課題となっている。

(委員)

高校生・大学生が中心となって活動していると、就職や進学でいなくなってしまうことがある。学生で作った団体の危うさはそこにある。今は代表が一人で動いているとのことだが、今後当てにできそうな人はいるのか。

(ConnectIng To Youth)

東浦に関わりがあり、熱心に来てくれているメンバーはいるので、育成していけば一緒に活動していけると思う。

(委員)

人材面での体制も整えなければ、結局また空き家に戻ってしまうので頑張ってほしい。

2 審査結果

事業名	団体名	得点 (点)	交付額 (円)
空き家を核とした地域イノベーション事業	ConnectIng To Youth	68	300,000

3 講評、総括

委員 5 名より下記のとおり講評があった。

(委員)

東浦町若者会議の結果がこのようにつながったことを嬉しく思う。若い人が東浦町を良くするというのは嬉しく思う。活動する中でいろいろと分かると思うが、地元・地域の人の意見も聞きながら活動すると、また違ったことが分かると思う。暗中模索になる部分もあるのではないかとと思うが、人の意見を聞きながらぜひ実現できるように頑張ってほしい。

(委員)

社会問題となっている空き家対策の一つであり、タイムリーな事業だと思う。ただ、収支予算書については具体的な記載がされていないため、精査して令和 12 年までの計画を続けられるよう、継続して実施して行ってほしい。

(委員)

東浦町での若者の提案を応援したいと思って審査した。若者がゆえに弱い部分が収支予算書に表れていると思う。まずは新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと考えてほしい。

9月にオープン予定のスナック&Bar 風についても、飲食を提供するのであれば保健所への届出など衛生面をしっかりと管理してほしい。担当部署、担当課へ相談しながら進めてほしい。

(委員)

今回補助額は満額となっているが、期待を込めての金額である。

不足部分はたくさんある。自由度が高いため、迷走しないように担当課と相談しながら進めていってほしい。

(委員長)

従来、計画が明確で、何にどれだけ支出するのかが分かる事業を助成・支援してきたが、今回は具体性の部分に大きな課題があり、補助金を出す側としてもチャレンジとなる。

取り組みたいという熱意に対して応援していくことだと思うが、失敗すると双方ともこういうやり方はできなくなってしまう。

失敗は教訓として次につなげていけるよう、考えながら取り組んでほしい。このやり方だとうまくいく、このやり方ではうまくいかないというプロセスを記録し、チャレンジをどのように実現してきたかのプロセスを追ってほしい。そうすれば、一年後には成果や、先に伸びていくために必要なことが見えてくると思う。プロセスを意識して取り組んでほしい。

二番目に、具体化していく際にはいろいろな人のアドバイスを聞いてほしい。やり方は適切なのか、もう少し効率的にできないか、もう少しきちんとやらなければならない部分はどこかなど。担当課だけでなく、いろいろな人の話を聞きながら進めていく必要がある。

予算についても、クラウドファンディングが上手くいってよりお金を集められた場合にはどうするのか、上手くいかなかった場合どこまで自腹を切るのかなどといったことも、自分だけでは解決できなくても、周りの人の知恵で乗り越えられることもある。できること、できないこと、助けてもらいたいことを発信していくことが大事。

また、若者だけがやるのが若者の地域参加ではない。できないこと、助けてほしいことは発信し、自分たちのやりたいことを実現するために、いろいろな人たちの知恵や資源、材料を借り、うまくシニアを巻き込みつつ応援してもらおうということがあっても良い。

新型コロナウイルス感染症対策は大事なことだが、ネガティブな意味でいかに対策するかではなく、ポジティブに、クリエイティブに行っていくことが大事だと思う。3密の回避のためにいかにも対策をしているというよりも、結果的に3密を回避できるようになっているというようなアイデアや見せ方を出せると良い。こうした実験的な取り組みだからこそ、受動的ではなく、アクティブに捉えてほしい。